

企業名： 大成建設

---

レポート名： 「統合レポート 2022」

---

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

大まかには理解できる。大成建設はグループ理念として「人がいきいきとする環境を創造する」ということを挙げており、統合レポートからも環境に配慮した経営を重要視していることがわかる。新たにサステナビリティ総本部を設置したこと、サステナビリティ総本部を中心としたサステナビリティ課題とSDGsへの取り組みについて詳細に書かれており、将来的に持続可能な社会を目指すという大成建設の考え方は理解することができた。一方グループ理念を追求するための考え方として、大成スピリット（自由闊達・価値創造・伝統進化）が挙げられていたがこの理念が抽象的なものにとどまっていると感じた。統合レポートの中でこの3項目に関して詳細に書かれている部分はなく、具体的に大成スピリットがグループ理念とどのように結びつくのか、これが将来目指している大成建設の姿にどう影響しているのかがよく理解できなかった。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できる。1で述べたように、大成建設は環境への配慮を強く意識し持続可能な社会を目指したサステナビリティ経営を重視していることがわかる。例えば二酸化炭素排出量の具体的な数値に基づく削減目標を設置するほか、二酸化炭素の排出量を抑えたコンクリートの開発やエネルギーの排出を大幅に抑えたZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の普及など、技術力の高さを活かした環境問題への取り組みを行っており、他社と比べて優位であると言える。またサステナビリティ関連だけでなく事業関連でも優位性があると言える。デジタル技術活用による体制整備によって受注競争力が高まっていることや、M&Aを活用して事業領域を拡大していること、組織再編によってリニューアル分野を再編していることが挙げられており、これらの点が事業面での競争優位性につながっているとわかる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

環境に配慮した経営は、政府が発表した2050年のカーボンニュートラル宣言に基づいていることがわかる。このことから大成建設は、持続可能な社会に向けた長期的な見通しを持っておりそのための計画的な取り組みを行なっていることがわかる。よって長期的にこのサステナビリティ経営は継続していくと考えられ、サステナビリティ関連では競争優位性に持続性があると理解できる。一方、事業関連では競争優位性に持続性があるとは理解できない。なぜなら事業関連についての記述が短期的な計画や目標にとどまっておりそれ以

降の見通しについて何も書かれていないからである。そのため長期的にどのように事業展開をしていくのかがわからず、優位性が持続的かどうか判断できない。

#### **4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか**

あまり思わない。統合レポートの中で働き手個人に焦点を当てて記載してある箇所が非常に少なく、またその多くが人権問題についてのものであった。育休取得率や女性の企業内での進出など、人的資本への取り組みに関して触れている箇所はいくつかあるものの、人的資本の価値向上に結びつくと思われるのは「ダイバーシティマネジメント研修」という記述のみであった。また人的資本の強化に向けた取り組みとしてエンゲージメントサーベイを実施したと書いてあるが、具体的にどのような調査なのか、どのような効果が見込めるのかわからず抽象的であると感じた。これらのことから、企業自体が人的資本やその価値向上にあまり関心を持っていないような印象を受け、自身の人的資本の価値向上は達成できないと感じた。

#### **5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか**

持続可能な社会を目指したサステナビリティ経営を行うという点を一貫して書いており、環境問題対策への熱量を感じた。一方、環境に関する内容が非常に多い分、他の技術面や事業面に関する記述量が少なくなっており、それによって抽象的な少しわかりにくい箇所が多くあった。具体的に技術面や事業面でどのような強みを持っているのか、長期的にどのような見通しを持っているのかなど、サステナビリティ以外の面での企業情報がさらにわかるようになれば良いと思った。